

Bù bǎo qí wǎng yě  
不保其往也おの たも  
其の往を保たざるなり〈述而第七〉う え だ あ つ お  
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

人を出身地によって差別しない。これは今日ではだれもが共有する、いわば常識の一つです。しかし実際はどうなのでしょう。例を挙げるまでもなく、これに相反する現実を私たちは世界各地で目にしています。

では、孔子の生きた時代はどうだったのでしょうか。こういった差別意識は、やはり根深いものがあったようです。『論語』に「互郷難与言(Hù xiāng nán yǔ yán)」「互郷与に言に難し」〈述而第七〉という言葉が出てきます。互郷という地域の人たちとは、まともな口がきけない、という意味です。「互」とは地名、「郷」とは村を幾つか合わせた行政単位の一つです。互郷は当時、土地柄の良くない地域とされていました。なぜそうなのか、詳細は記されていませんが、こういう地域は当時、各所にあったようです。ちなみに孟子の母親は、幼い孟子を教育するために、土地柄を選んで三回も引越したとされています。この話は「孟母三遷」〈『烈女伝』『蒙求』等〉の美談として、日本でも代々語り継がれてきましたが、見方によっては、地域差別の実例とも言えます。

それはさて置くとして、ある時、この互郷から一人の少年が、孔子に会いたいと言ってやってきました。当時の常識からすれば、こんな地域から孔子に会いたいという人物が現れること自体、あり得ないことでした。とは言え、師匠に会いに来た者を師匠に無断で追い返すわけにもいかない。門人たちは、どうしてよいか分からず、ただ迷うばかりでした。文面には「童子見，門人惑(Tóng zǐ jiàn。Mén rén huò)」「童子見ゆ。門人惑う」とあるだけですが、この間に相当激しい議論が交わされたことが想像されます。

この様を目にした孔子は、次のように言って門人たちを叱りました。

「与其进也。不与其退也。唯何甚!(Yǔ qí jìn yě。Bù yǔ qí tuì yě。Wéi hé shèn!)」(其の進むに与するなり。其の退くに与せざるなり。唯だ何ぞ甚だしきや)。前に進もうという熱意を買ってやろう。折角やって来た者を追い返すとは、ひどい話ではないか、と。

孔子はさらに続けます。「人洁己以进，与其洁也。不保其往也(Rén jié jǐ yǐ jìn, yǔ qí jié yě。Bù bǎo qí wǎng yě)」「(人己を潔くして以て進めば、其の潔きに与するなり。其の往を保たざるなり)。人が決意を新たにしてい前に進もうというのであれば、その心意気を買ってやれ。過去のことは、こたわらぬ、と。

孔子はまた「遂事不谏，既往不咎(Suì shì bú jiàn, jì wǎng bú jiù)」「(遂事は諫めず、既往は咎めず)〈八佾第三〉とも言っています。過ぎ去ったことにはこだわらない、ということです。これは弟子の失言に対して発した言葉ですが、今でもそれぞれ四字熟語として立派に通用しています。こんな所にも孔子の未来志向の片鱗を窺うことができます。

孔子は身分制度を重んじる立場の人でした。当時の社会が乱れていたのは、旧来の身分制度を無視する勢力が横行しているからだと考えていました。礼を重んじ、義を重んじたのはそのためです。そういった意味合いからすれば、孔子は保守主義者でした。

しかし、こと教育に関しては、しかと未来を見据えていました。しかも一人ひとりの個性と能力を考え、常に公平、平等を心がけていたのです。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)